

日本医療薬学会 第6回フレッシュャーズ・カンファランス開催報告書

第6回フレッシュャーズ・カンファランス

実行委員長 内田 まよこ

日本医療薬学会第6回フレッシュャーズ・カンファランスは2023年6月11日（日）に同志社女子大学京田辺キャンパス（京都府京田辺市）にて開催いたしました。現地開催の臨場感と遠方の参加者の方々への利便性を勘案して、現地開催とオンライン（ライブ配信）を並行したハイブリッド形式を採用しました。

本カンファランスは、薬学部の学生や研究をスタートして間もない薬剤師の方々を主な対象に、研究成果を発表する場として2017年に発足しました。本カンファランスは、関東地区と関西地区で交互に開催しており、関東地区では第1回は慶応義塾大学（実行委員長：大谷壽一先生）、第3回は帝京大学（実行委員長：渡辺茂和先生）、第5回は武蔵野大学（実行委員長：伊藤清美先生）といずれも現地で開催されております。一方、関西地区では、第2回として立命館大学で開催される予定でしたが、西日本豪雨の影響で遺憾ながら中止となり、誌上開催となりました（実行委員長：桂敏也先生）。また、第4回は大阪医科薬科大学で開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により1年延期のうえオンラインで開催されました（実行委員長：中村敏明先生）。関西地区では、今回初めて現地開催できる運びとなりました。

今回の第6回フレッシュャーズ・カンファランスは、330名（内訳：現地参加223名、オンライン参加107名）に上る参加登録者をお迎えし、盛況のうちに終えることができました。また、学生の参加登録者は109名と全体の約1/3を占めており、本カンファランスの趣旨に合致する構成となっております。そして、口頭発表48演題（内訳：現地発表44演題、オンライン発表4演題）、ポスター発表52演題（内訳：現地発表48演題、オンライン発表4演題）のご発表がありました。座長をはじめ参加者の方々から多くのご質問が寄せられ、活発な討論がなされました。ハイブリッド開催とすることで、現地開催とオンライン開催それぞれの有用性を再認識することができたと感じております。

全100演題のうち、オンラインでのポスター発表4演題を除く96演題を対象に、審査員32名による優秀演題発表賞の選考を行い、口頭発表16演題、ポスター発表16演題の合計32演題が表彰されました。

教育講演では、北海道大学卓越教授の豊嶋崇徳先生から「臨床現場での気づきから始まる研究こそ価値がある」と題してご講演を賜りました。「新型コロナウイルス感染症の唾液診断法の開発」での臨床研究を具体例として、社会で起きている問題点にどう向き合うか、臨床での気づきを大事にした研究を進めることの意義について、心に響く多数のメッセージをご教示いただきました。また、質疑応答では聴講者の先生方が歓笑する和やかな雰囲気での活発な意見交換がなされ、ウィットに富んだ素敵な話術で聴講者を魅了されるご講演と質疑応答となりました。明日からのモチベーションアップにつながり、研究立案の一助となることを確信しております。

最後に、今回のフレッシュャーズ・カンファランスを開催するに当たり、ご発表、ならびに、ご参加頂きました先生方、座長の先生方、豊嶋先生、実行委員の先生方、そして、星様・阿部様をはじめとする日本医療薬学会事務局の皆様、深山様をはじめとするライオン企画株式会社大阪支社の皆様、本学の運営協力者の教職員・学生の皆様に厚く御礼申し上げます。